

定通部だより

2010年
11月22日発行
第3号
発行責任者
今泉 宏

日高教定通部

2010年度中国・四国・九州ブロック学習交流集会

- 1 日 時 2010年11月6日(土) 14:00~7日(日) 11:30
- 2 会 場 松江市千鳥町20「ホテル白鳥」
- 3 本県参加者 江頭 清隆(佐工定)・寺井 寿美・前田 祥紀(長工定)・濱本 功二(大村定)
他県参加者 岡山2名、山口3名、佐賀4名、高知1名、島根9名
- 4 内 容

11月6日(土) 学習会並びに夕食交流会

(1)「新設 宍道高等学校 現状報告」

宍道高校 安達夕紀(代理発表 西 政輝)

松江高校定時制、松江南高校宍道分校(昼間2部定時制)、
出雲高校(昼間2部定時制)が統合し、宍道高校が新設された

(2)「紙工作でめっちゃメカメカ」 松江工業高校定時制 西 政輝

アルミ板(ジュース等の空き缶利用)で折り紙作成

(3)「佐賀県の定時制通信制の現況報告」 佐賀商業高校定時制 松藤 宏明

- 1) 佐賀県の定時制は、後期入試(1回目)、2次募集(2回目)の2回の選抜試験が行われる。定員に満たなくても問題がある場合は、不合格になる場合がある。
- 2) 太良高校(全日制普通科)に不登校・発達障害の生徒を専門的に受け入れるクラス(40人)が新設される。
- 3) 学校敷地内に駐車場料金(1200円/月)を今年度から徴収するようになった。
- 4) 定時制も50分授業になった。
- 5) 佐賀工業高校定時制は、全日制にきた求人を見せてもらい、企業にかけあっている。
- 6) 基礎学力をつけさせるために、5時間目の授業を設けて学習させている。

11月7日(日) 講演 演題「子どもの貧困と格差」

講師 青砥 恭 氏(関東学院大学非常勤講師)

- 1) 官公庁の統計では高校中退が2%台になっているが、実際は8%を越えている。
- 2) 埼玉県の高校150校を高校入試の成績順に30校ずつランク付けしたとき、成績下位校ほど授業料免除、不登校者が増えている。
- 3) 全国平均で、生活保護家庭×1.3倍の生徒が修学援助を受けている。
- 4) 数十年前までは、貧困層から中流層や上流層への階層移動が可能であったが、今は無理である。
- 5) 子どもにとって、幼少期にどんな言葉を遣い、どんな言葉で話しかけられてきたかという言語環境は重要である。言語環境が貧困を相続させることにも繋がっている。
- 6) 高校を中退することが即、生涯貧困層になる可能性が高い。
- 7) イギリスではサッチャー政権の教育改革法(1988)以降、子どもの貧困率が30%を越えたため、1999年以降、継続的なプログラムができた。



【参加者の感想】

今回、初めて中・四・九州ブロック学習交流集会に参加させていただきました。特に印象に残ったのは、佐賀県のレポートの中で入学試験（09年度及び10年度）の合格率がきわめて低かったことです。このことには驚かされました。各県からも多くの意見が出され、この問題について時間をさいて討論しましたが、解決策がでないまま終了しました。私個人の考えとしては、よほどの事がない限り受け入れ、高校は義務教育ではないので、環境が変わり、同じ境遇の生徒と一緒に学ばせてからでも遅くはないのではないかと思います。

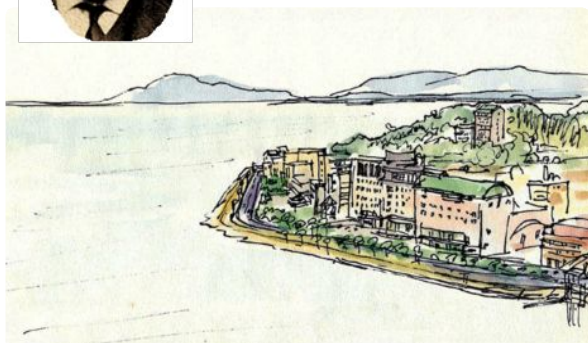
2日目の講演では、講師 青砥 恭 さんが「子どもの貧困と教育の役割」という演題でパワーポイントを使いわかりやすく講演されました。今後の生徒たちの指導に生かしていきたいと思えます。

夕食懇親会では酒を酌み交わしながら楽しく交流することができました。

このような機会を与えていただき、ありがとうございました。
寺井 寿美（長工定）

初めての山陰地方、初めての中・四・九州ブロック学習交流集会でしたが、とても有意義な会でした。定時制・通信制の抱えている問題点や貧困について考えさせられました。特に青砥氏の講演は、聞き取り調査やアンケートの集計、分析などの科学的な研究を踏まえた内容で、大変説得力があり納得させられるものでした。落ち着いた松江の町で島根高教組の先生方に温かいもてなしを受け、また、中国・四国・九州の先生方と交流できた楽しい2日間でした。

濱本 功二（大村定）



最初の自己紹介では、学校や生徒の現状・困っていることなどを出し合い、どこも同じような悩みを抱えているんだなと頷きながら聞き入った。

佐賀の報告は、『学校を乱すおそれのある者は落とす』というとてもショッキングな報告だった。このことは、佐賀県内の定時制7高校で、暗黙のうちに取り決められている受検生の合格基準の一つのことである。中学校から生徒の情報ももらい、面接でその恐れのある生徒には合格を出さない。そのせいか、校内は落ち着いており、授業も静かに進行しているとのことだった。ただ、行き場をなくした子どもたちはどこで何をしているのだろうかとの声も聞かれた。考えさせられる報告だった。

交流会は、他県の参加者とは初めての出会いだったが、定時制通信制高校に勤務していないと経験できないさまざまなことを積み重ねてきたからこそ語り合える、とても内容の濃い自分の成長のために役に立つ会だった。

定時制通信制の学校に勤務する高教組の教員として、強くつながっていることを実感できた有意義な会であった。

江頭 清隆（佐工定）

研修会で印象に残ったのは、佐賀からのレポートで、入試にて定員に達していなくても県内すべての学校で不合格者が出ていることです。ある佐賀の方は、このことによって学校の秩序が保たれ、授業もやりやすくなったと言っていました。このことはわからないではありませんが、本当にそれでいいのでしょうか。夜間定時制の担う役割とはいったい何なのだろうかと考えさせられる報告でした。また、学校において駐車料金を徴収する県が増えてきています。今後長崎県でもなされるのでは心配です。

交流会はさすが日本海側ですね、九州ではビールの後は焼酎になるところが、日本酒でした。来年は高知かと聞きました。高知は焼酎でしょうか。楽しい夜を過ごせました。

講演は夏季教研に続いて2回目でした。興味を引く内容でしたので、しっかり身につけたいと思っていました。夏に1回聞いただけではうまく消化できず、さすがに2回も聞けば大丈夫と思えました。しかし、今回の講演も時間が短かく、話のスピードが速く、ずいぶんショートカットされていました。今回も未消化部分が残ってしまいました。また本を読んで補充しなくてははいけません。

前田 祥紀（長工定）